光一中だより

教育目標
○自主的に学び、考え、実行する人
○心豊かで、ともに助け合う人
○健康で、勤労を愛する人

練馬区立光が丘第一中学校
校　長　　山谷　安雄
令和４年度　第４号
令和４年７月１１日

学校に近づく野鳥を見て

校　長　　山　谷　　安　雄

１学期も残りわずかになりましたが、コロナ禍前の学校生活にすこしずつ戻りつつあります。特に、運動会と２年生の校外学習では生徒たちの活躍する場面を見ることができ大変よかったです。学校では、調理実習以外、ほぼ例年通りの授業が実施できています。しかし、６月下旬から都内の感染者が増加し始めているのが気になるところです。

ところで、５月の掃除をする前の学校のプールには、光が丘公園からカモが時々つがいで飛んできて泳いでいました。以前より、自然環境が良くなっているので、野鳥を見る機会が多くなった気がします。関東近辺を歩いていても、ウグイスの鳴き声を聞く機会が多くなった気がします。

だいぶ前のものですが大変興味深いニュースがあったので内容を紹介します。カラスの害で困っている施設の方が、何とかならないものかと、ある人に相談した内容です。「張り紙に、『カラス進入禁止』を書いて貼ってみてください。」・・・何を言っているのだと普通の人は思います。しかし、実際に『カラス進入禁止』を貼ると、カラスは近づかなくなったそうです。このアイディアを提案したのが、「東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター」の方です。肩書を見ると、日本の最先端の研究をしていそうな所です。ここの施設でも、以前カラスの害に困って試しに張り紙を貼ったら、カラスが近づかなくなったとのことです。さて、これをどう解釈するかです。まず、カラスが進化して知能が高くなり、字を読んだということは考えられません。科学的に考えると、『カラス進入禁止』の張り紙を通る人が見ると、空を見上げるそうです。すると、電柱や電線に止まっているカラスは、自分を見ているのだと感じるのでしょう。そして、カラスは自分が警戒されていると感じて近づかなくなったと研究所の方は説明していました。

また、鳥の習性で理由が分からないものがあります。モズの「はやにえ」です。秋も深まってくるころ、カエル等が木の枯れ枝に刺さっていることがあります。誰かがいたずらをしているかと思いきや、モズが取ったカエル等を枝に刺しています。色々な説を唱える人がいますが、真実は分かりません。えさを蓄えていると言う人がいますが、モズは忘れてしまったのか、カエル等を後で取りに戻ってきません。

また、他の鳥の習性で、渡り鳥が長い距離を飛ぶときには、数十羽がＶ字になって飛んできます。これは、科学的に証明されていて、先頭の鳥以外は、空気の抵抗が小さくなって、エネルギーの消費を最低限にして飛ぶ、合理的な飛び方だそうです。

シジュウカラだとかメジロだとかオナガだとか、野鳥も名前が分かってくると意外と見ていて楽しくなります。ほっと一息ついた時、自然豊かなところで野鳥のさえずりを聞いた時、野鳥の名前を調べるのも心に潤いを与えるものです。

夏休みに入るので、自然を少し意識するのも良い経験につながります。いま、生徒達は夏休みの計画を立てている頃だと思います。有意義な休みになることを期待しています。